

## Netcommunity SYSTEM X7000 のローカルファームアップ手順書

### 1. X7000 主装置のバージョンが V3.00、V4.00 の場合

バージョンアップを行う前に、必ずシステムデータのバックアップを行ってください。

DHCP サーバ機能を利用している場合は、バージョンアップを行う前に、メインメニュー - 保守 - レポート表示 - DHCP 割り付け状態で、「保存」ボタンをクリックし、最新の DHCP リース情報を記録してください。

X7000 主装置のバージョンが V4.00 以前の場合、バージョンアップ完了後、主装置は自動的に再起動されます。

X7000 主装置のバージョンが V4.00 以降の場合、自動再起動にチェックを入れて、バージョンアップを開始した場合、バージョンアップ完了後、主装置は自動的に再起動されます。

システム再起動完了後まで、電話機機能は使用できなくなります。

#### 手順 1

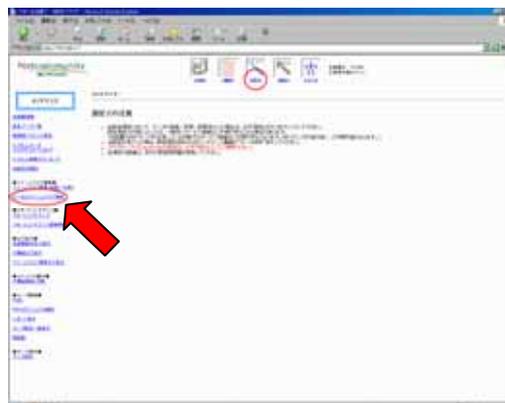
バージョンアップファイルを、X7000 の設定を行う WindowsPC の適当なフォルダにコピーします。

#### 手順 2

主装置のブラウザ画面(主装置 IP アドレス:192.168.1.1(初期値))にアクセスし、画面上部のアイコンから **保守** を選択し、「メンテナンス」画面を表示します。

#### 手順 3

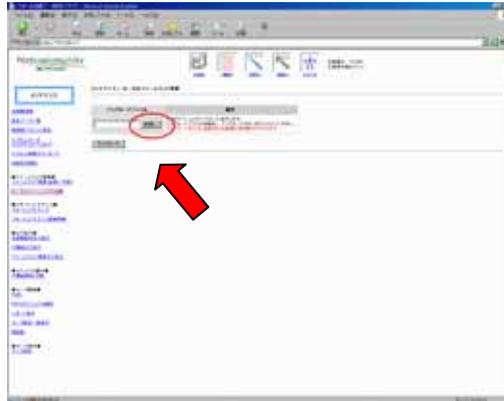
メンテナンス画面の **ローカルファームウェア更新** を押下し、「ローカルファームウェア更新」画面を表示します。



【X7000用ローカルファームアップ手順書】

手順 4

**参照** ボタンを押下し、ファイルの選択画面を表示します。



手順 5

バージョンアップファイルを選択し、**開く** ボタンを押下します。(例:x7000.up)



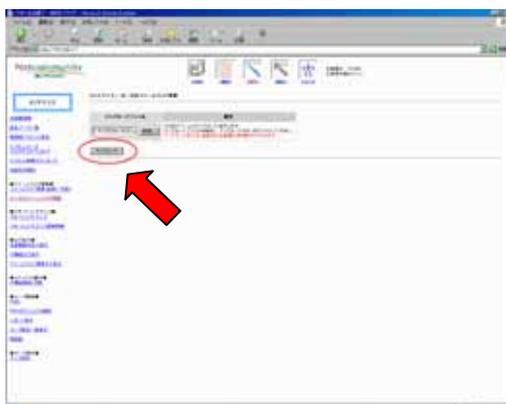
手順 6

< X7000 主装置のバージョンが V4.00 以前の場合 >

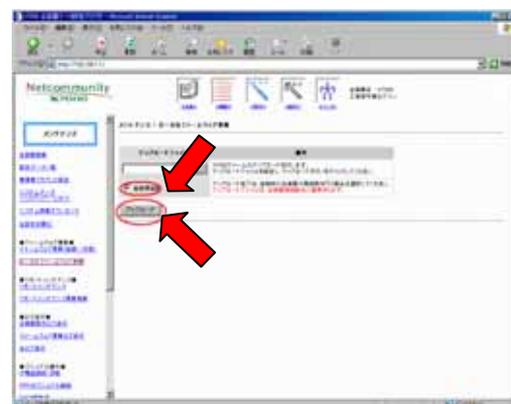
**アップロード** ボタンを押下します。

< X7000 主装置のバージョンが V4.00 以降の場合 >

バージョンアップ完了後、自動的に主装置の再起動を行う場合、自動再起動にチェックを入れて **アップロード** ボタンを押下します。



X7000 主装置のバージョンが V4.00 以前の場合



X7000 主装置のバージョンが V4.00 以降の場合

## 【X7000用ローカルファームアップ手順書】

### 手順 7

確認画面が表示されますので、**OK** ボタンを押下するとアップデートが開始されます。



### 手順 8

アップデート開始から、再起動完了までアップデート中は、画面操作は何も行わず、そのまましばらくお待ちください。また、アップデート中は、主装置正面にある ALARM と INFO の LED が交互点滅します。

### 手順 9

アップデートが完了し再起動が始まると以下の画面が表示されますので、**OK** を押下し、システムの起動が完了するまでしばらくお待ちください。



### 手順 110

システムの再起動が完了後、X7000 にブラウザでアクセスし、トップ画面でバージョン情報を確認します。

### 注意事項

- ルータ詳細設定の DHCP サーバ設定で、「DHCP 利用する」としている場合は、バージョンアップを行う前に、メインメニュー - 保守 - レポート表示 - DHCP 割り付け状態で、「保存」ボタンをクリックし、最新の DHCP リース情報を記録する必要があります。
- バージョンアップ実行中に、別画面で「ローカルファームウェア更新」画面を開いた場合、バージョンアップ処理中であることが表示されます。
- バージョンアップ実行中に、画面の更新などを行い、再度「ローカルファームウェア更新」画面を開いた時点で、バージョンアップ処理が正常に行われている場合は、正常にバージョンアップが完了したことが表示されます。手動で主装置の再起動を行ってください。
- バージョンアップが正常に行われなかった場合には、バージョンアップに失敗したことが表示されます。再度バージョンアップを実行してください。
- システム起動中においては、ブラウザ画面の表示が正常に行われな場合があります。その場合は、しばらく時間を置いて再度アクセスしてください。
- X7000 主装置のバージョンが V4.00 以降の場合で、自動再起動にチェックを入れずに **アップロード** ボタンを押下した場合アップロード完了後、手動で主装置の再起動を行ってください(アップロードファイルは主装置再起動後に適用されます)。

## 2. X7000 主装置のバージョンが V2.04、V2.03 の場合

手動アップロードを利用して、バージョンアップを行います。

ファームウェアには、最大 5 種類(主装置メイン部、主装置ルータ部、GW(メイン)、GW(サブ)、IPKT)ありますので、それぞれ別々にバージョンアップを行います。

バージョンアップを行う前に、必ずシステムデータのバックアップを行ってください。

DHCP サーバ機能を利用している場合は、バージョンアップを行う前に、メインメニュー - 保守 - レポート表示 - DHCP 割り付け状態で、「保存」ボタンをクリックし、最新の DHCP リース情報を記録してください。

主装置メイン部 / ルータ部のバージョンアップ完了後、主装置は自動的に再起動されます。

システム再起動完了後まで、電話機機能は使用できなくなります

主装置メイン部 / 主装置ルータ部のバージョンアップを実行し、バージョンアップに失敗した場合、またはバージョンアップ中に画面のリロードなどを行った場合、他のバージョンアップ項目は規制されます。

v3 以降へのバージョンアップを行った場合は、システムの再起動後、WAN 接続設定でのファームウェア更新用インタフェースの設定を行ってください。

### 手順 1

バージョンアップ前に、設定データを保存してシステムの再起動を行います。

### 手順 2

バージョンアップファイルを、X7000 の設定を行う WindowsPC の適当なフォルダにコピーします。

**v3.xx 以降のバージョンアップファイルをコピーします。**

### 手順 3

主装置のブラウザ画面(主装置 IP アドレス:192.168.1.1(初期値))にアクセスし、画面上部のアイコンから **保守** を選択し、「メンテナンス」画面を表示します。

### 手順 4

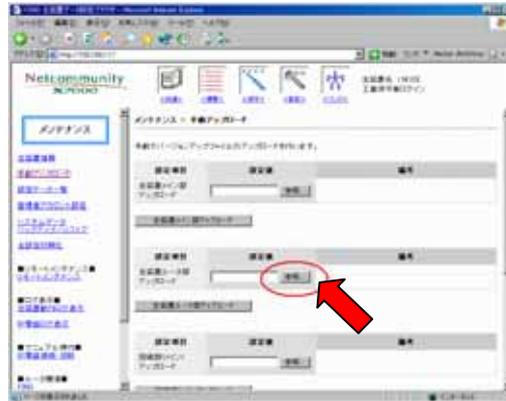
メンテナンス画面の **手動アップロード** を押下し、「手動アップロード」画面を表示します。



【X7000用ローカルファームアップ手順書】

手順 5

指定されたアップロードモジュールの **参照** ボタンを押下し、ファイルの選択画面を表示します。(例:主装置ルータ部)



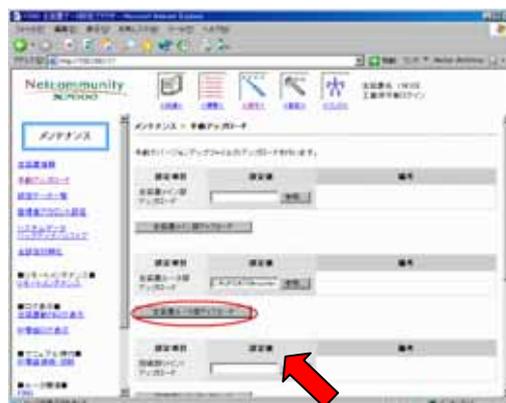
手順 6

バージョンアップファイルを選択し、**開く** ボタンを押下します。(例:router.up)



手順 7

**アップロード** ボタンを押下します。(例:主装置ルータ部アップロード)



## 【X7000用ローカルファームアップ手順書】

### 手順 8

アップロード完了後、主装置は自動で再起動します。

確認画面が表示されますので、**OK** ボタンを押下するとアップデートが開始されます。



### 手順 9

アップデート開始から、再起動完了までアップデート中は、画面操作は何も行わず、そのまましばらくお待ちください。また、アップデート中は、主装置正面にある ALARM と INFO の LED が交互点滅します。

### 手順 10

アップデートが完了し再起動が始まると以下の画面が表示されますので、**OK** を押下し、システムの起動が完了するまでしばらくお待ちください。



### 手順 11

システムの再起動が完了後、X7000 にブラウザでアクセスし、トップ画面でバージョン情報を確認します。

### 注意事項

- バージョンアップ開始前に、設定データを保存してシステムの再起動を実行する必要があります。
- ルータ詳細設定の DHCP サーバ設定で、「DHCP 利用する」としている場合は、バージョンアップを行う前に、メインメニュー - 保守 - レポート表示 - DHCP 割り付け状態で、「保存」ボタンをクリックし、最新の DHCP リース情報を記録する必要があります。
- バージョンアップ実行中に、別画面で「手動アップロード」画面を開いた場合、バージョンアップ処理中であることが表示されます。
- バージョンアップが正常に行われなかった場合には、バージョンアップに失敗したことが表示されますので、再度バージョンアップを実行してください。
- v3 以降へのバージョンアップを行った場合は、システムの再起動後、WAN 接続設定でのファームウェア更新用インターフェースの設定を行ってください。
- システム起動中においては、ブラウザ画面の表示が正常に行われな場合があります。その場合はしばらく時間をおいて再度アクセスしてください。